

I 第10週の発生動向 (2015/3/2~3/8)

1. インフルエンザについては、上十三保健所管内で**警報**が継続しています。また、むつ保健所管内で新たに**注意報**が発令されました。
2. 感染性胃腸炎については、患者報告数が190人でした。

II 第10週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)		
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点	
小児科 内科 (90) インフルエンザ	66	5.1	56	3.7	56	3.7	18	2.6	93	10.3	66	11.0	355	5.5	-73			66	5.5	
(79) RSウイルス感染症			5	0.6	4	0.4	5	1.0	2	0.3			16	0.4	-4					
(80) 咽頭結膜熱	5	0.6	5	0.6					1	0.2			11	0.3	4			5	0.6	
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	3.4	16	1.8	25	2.5	1	0.2	5	0.8	10	2.5	84	2.0	28			27	3.4	
(82) 感染性胃腸炎	60	7.5	21	2.3	55	5.5	17	3.4	14	2.3	23	5.8	190	4.5	-1			60	7.5	
(83) 水痘	3	0.4	9	1.0					6	1.0	3	0.8		21	0.5	-3			3	0.4
(84) 手足口病	3	0.4											3	0.1	2			3	0.4	
(85) 伝染性紅斑			1	0.1	13	1.3			7	1.2			21	0.5	-5					
(86) 突発性発しん	2	0.3			4	0.4			2	0.3	2	0.5	10	0.2	-2			2	0.3	
(87) 百日咳															0					
(88) ヘルパンギーナ					1	0.1							1	0.0	1					
(89) 流行性耳下腺炎							1	0.2					1	0.0	-5					
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0					
(92) 流行性角結膜炎	4	2.0			4	2.0	1	1.0	1	0.5	1	1.0	11	1.0	5			4	2.0	
基幹 (97) クラミジア肺炎															0					
(98) 細菌性髄膜炎															0					
(100) マイコプラズマ肺炎															-2					
(101) 無菌性髄膜炎					1	1.0	1	1.0					2	0.3	2					
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)			1	1.0	2	2.0	3	3.0			4	4.0	10	1.7	8					

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患):東地方+青森市1人、弘前2人、八戸1人、上十三2人(2015年計:59人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患):東地方+青森市1人(2015年計:2人)

IV 病原体検出情報 ※()内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・上気道炎患者(鼻汁、12/26)・・・ヒトライノウイルスA:弘前市(1)
- ・下気道炎患者(鼻汁、12/24~1/16)・・・RSウイルス:弘前市(2)、ヒトメタニューモウイルス:弘前市(2)
- ・けいれん群発患者(ふん便、1/6)・・・A群ロタウイルスG1型:八戸市(1)

感染症の窓

梅毒 (五類全数把握疾患)

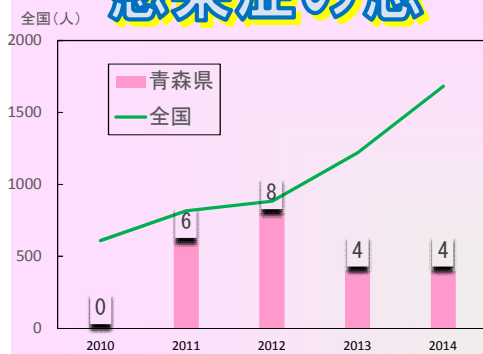


図1 過去5年間の梅毒報告数推移

梅毒は、スピロヘータの一種である梅毒トレポネーマが病原体の性感染症です。病名は症状にみられる赤い発疹が(楊梅=ヤマモモ)に似ていることに由来します。後天梅毒の病期は1~4期に分けられますが、3、4期はまれです。1期では感染後3週間頃に、感染局所に初期硬結や硬性下疳、リンパ節腫脹が見られ、感染後3ヶ月頃から皮膚や粘膜にバラ疹や丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマなどの特有な発疹が見られます。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染した場合は、流産、死産、早産、新生児死亡など先天梅毒を生じる原因となります。

全国における報告数は、過去と比較すると少ないものの、近年では増加傾向にあり、ここ5年間で約2.8倍に増えており、引き続き注意が必要

です。本県における報告数は、0~8人の範囲で推移しています(図1)。好発年齢は成人で、男性に多いとされ、本県においても30歳代の男性にピークがあります。

主な感染経路は、感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触です。

治療にはペニシリン系抗菌薬が有効で、耐性菌は報告されていません。検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあり、早期発見が大切です。時に無症状ながら進行するため、治ったことを確認しないで途中で治療をやめてしまわないようにすることが重要です。終生免疫は得られず、完治しても感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要です。

なお、厚生労働省のホームページでは「梅毒に関するQ&A」を掲載しています。

(http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html)

【参考】病原微生物検出情報(IASR)

V 県内インフルエンザ情報

第10週の患者報告数は、355人で、迅速診断キットによる型別はA型335人、B型17人、不明3人でした。

警報レベル開始基準値：30人/定点、警報終息基準値：10人/定点、注意報基準値：10人/定点

(※ 警報注意報基準値は保健所ごとの定点あたり報告数が基準となっています。)

保健所管内別届出人数 (人)

週	47	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
東地方					3	3	19	13	25	25	11	13	9	3	1	
弘前				7	28	60	58	228	277	385	444	275	190	113	80	56
八戸		1	22	65	175	326	453	449	485	549	395	287	177	98	62	56
五所川原			1	23	50	71	129	169	165	166	121	110	66	50	41	18
上十三		1	32	76	204	318	552	426	394	386	328	214	170	131	140	93
むつ	2	2		1	15	32	97	138	206	262	325	236	140	59	50	66
青森市		1	3	11	41	151	159	363	317	508	612	484	277	148	54	66
合計	2	5	58	183	516	961	1467	1786	1869	2281	2236	1619	1029	602	428	355

A型 (迅速診断キットによる型別です)(人)

週	47	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
東地方					3	3	19	13	25	25	11	13	9	3	1	
弘前				7	28	59	57	228	275	382	442	274	183	111	76	45
八戸		1	21	54	170	321	450	442	477	528	392	276	163	93	56	51
五所川原			1	22	50	70	129	168	165	166	121	110	66	49	40	18
上十三		1	32	74	200	305	544	397	376	369	303	196	159	125	135	91
むつ	2	2		1	15	32	97	138	206	261	322	235	139	59	50	66
青森市		1	3	10	40	145	143	350	301	487	592	455	268	144	53	64
合計	2	5	57	168	506	935	1439	1736	1825	2218	2183	1559	987	584	411	335

B型 (迅速診断キットによる型別です)(人)

週	47	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
東地方																
弘前						1						1	3	2	4	11
八戸			1	1					1	1			3	3	4	4
五所川原				1		1		1						1	1	
上十三								1	1				3	1		
むつ										1	3	1	1			
青森市						1	2			2	2	2	1	1	1	2
合計	0	0	1	2	0	3	2	2	2	4	5	7	9	7	10	17

年齢区分別(人)

週	47	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
～5ヶ月					1	3	8	8	12	4	5	11	8	2	2	3
～11ヶ月			1	1	6	9	16	21	31	28	15	15	12	7	3	4
1歳			4	3	9	23	31	68	100	84	66	52	31	37	22	14
2歳				5	15	30	25	65	100	85	79	67	40	36	28	13
3歳			1	9	11	27	34	62	89	94	86	66	49	24	22	13
4歳			3	8	20	33	34	51	93	128	80	56	47	45	18	16
5歳			4	12	23	34	37	55	87	97	93	66	55	39	24	14
6歳		1	9	12	25	53	37	66	107	126	113	95	64	30	20	30
7歳			5	11	21	32	34	46	73	111	107	100	60	30	16	12
8歳			6	15	20	39	23	27	41	111	119	109	57	14	22	24
9歳			7	13	25	47	28	30	39	110	120	72	57	27	26	20
10～14歳		1	9	46	159	227	154	155	197	500	634	383	209	135	66	36
15～19歳				19	36	51	73	101	80	98	87	67	43	21	14	20
20～29歳		1	1	2	31	82	229	198	120	106	69	46	23	28	17	17
30～39歳	1	1	1	5	34	79	179	184	180	123	136	114	60	24	29	26
40～49歳		1	3	7	33	63	156	172	135	130	130	82	64	27	15	14
50～59歳	1		1	7	13	51	106	170	98	89	87	55	46	17	22	10
60～69歳			2	4	11	31	114	112	98	86	73	59	48	21	32	21
70～79歳			1	3	9	27	78	87	86	78	61	51	26	17	18	20
80歳以上				1	14	20	71	108	103	93	76	53	30	21	12	28

VI 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第46週～2015年第10週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
46	H26.11.10 ~ H26.11.16	つつが虫病1人		侵襲性肺炎球菌感染症1人			
47	H26.11.17 ~ H26.11.23			A型肝炎1人			
48	H26.11.24 ~ H26.11.30	侵襲性肺炎球菌感染症1人				腸管出血性大腸菌感染症1人	
49	H26.12.1 ~ H26.12.7	つつが虫病1人	急性脳炎1人			腸管出血性大腸菌感染症3人	
50	H26.12.8 ~ H26.12.14		劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人				
51	H26.12.15 ~ H26.12.21	腸管出血性大腸菌感染症3人	後天性免疫不全症候群1人	アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人			
52	H26.12.22 ~ H26.12.28	腸管出血性大腸菌感染症1人	カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人	侵襲性肺炎球菌感染症1人			
1	H26.12.29 ~ H27.1.4		侵襲性肺炎球菌感染症1人				
2	H27.1.5 ~ H27.1.11			侵襲性肺炎球菌感染症1人			
3	H27.1.12 ~ H27.1.18						
4	H27.1.19 ~ H27.1.25		水痘(入院例)1人	アメーバ赤痢1人 カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人			
5	H27.1.26 ~ H27.2.1		カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人				
6	H27.2.2 ~ H27.2.8					侵襲性肺炎球菌感染症1人	
7	H27.2.9 ~ H27.2.15	アメーバ赤痢1人	後天性免疫不全症候群1人				
8	H27.2.16 ~ H27.2.22	アメーバ赤痢1人				腸管出血性大腸菌感染症1人	
9	H27.2.23 ~ H27.3.1	カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人					
10	H27.3.2 ~ H27.3.8	腸管出血性大腸菌感染症1人					

VII 結核(二類全数把握疾患) (2014年第52週～2015年第10週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
52	H26.12.22 ~ H26.12.28		3	1		2	1
1	H26.12.29 ~ H27.1.4		1				
2	H27.1.5 ~ H27.1.11	3	1			1	
3	H27.1.12 ~ H27.1.18	1	3		1	2	
4	H27.1.19 ~ H27.1.25		1	2	2	1	1
5	H27.1.26 ~ H27.2.1		1	6	1		
6	H27.2.2 ~ H27.2.8	2	3	1		1	
7	H27.2.9 ~ H27.2.15	1	2	3			
8	H27.2.16 ~ H27.2.22	2	1	1	2		1
9	H27.2.23 ~ H27.3.1		1	2	1	1	
10	H27.3.2 ~ H27.3.8	1	2	1		2	

VIII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2015年第1週～第8週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	重症熱性血小板減少症候群	チングニア熱	つつが虫病	テング熱	ブルセラ症	マリア	レジオネラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		
累積報告数	3036	2	16	133	6	5	26	47	3	2	1	1	15	30	2	1	176	156	24	149	113	4	26	75		

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性パルエンテラ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	種痘性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹	薬剤耐性アノキネーター菌感染症	
累積報告数	164	10	39	7	425	46	234	19	10	7	27	6	2

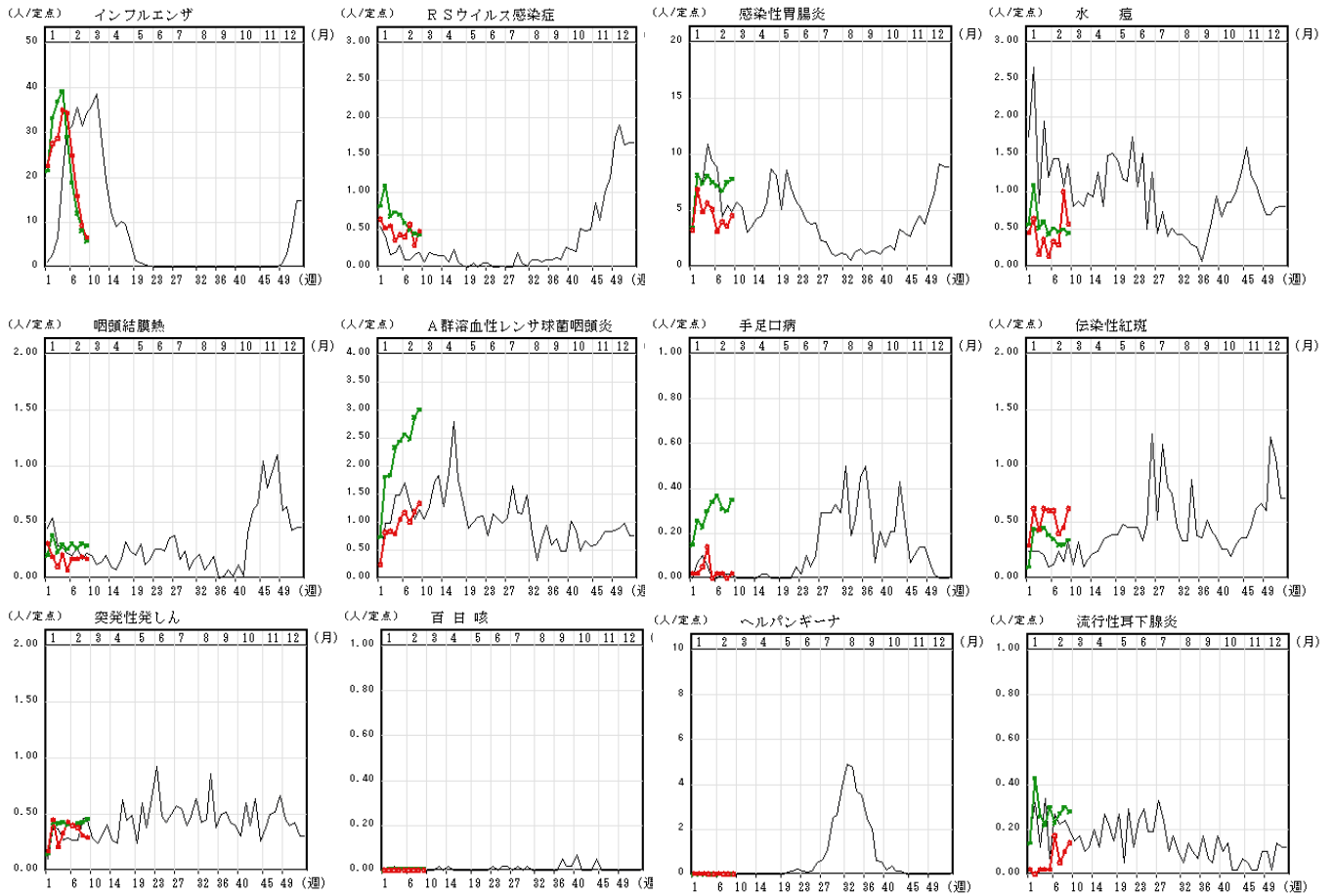
青森県

(2015年第1週～第10週累計)

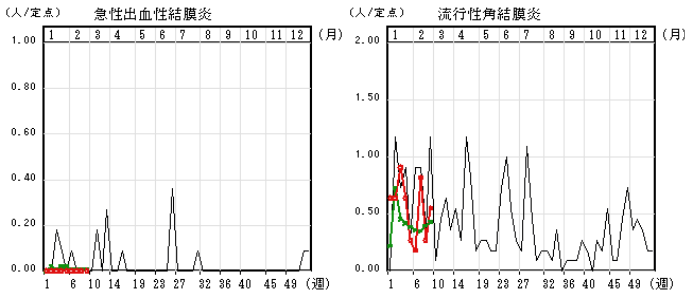
分類	二類	三類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)
累積報告数	59	2	3	3	1	4	1

IX インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2015年第9週)

グラフの説明 ○—○は2015年青森県、——は2014年青森県、×—×は2015年全国



X 眼科定点把握疾患週別推移 (2015年第9週)



XI 基幹定点把握疾患週別推移 (2015年第9週)

